

夏休み号

コロナ禍3度目の夏

校長 桐ヶ谷 淳子

学 校 だより



大和市立草柳小学校
大和中央3-6-1

今日で1学期が終わります。関東地方は6月27日に梅雨明けし、梅雨の期間は史上最短だったということです。そして連日気温35度を超える猛暑が続き、学校では業間休みや昼休みに校庭で遊ばないように子どもたちに指示しました。不満の声が多数上がりましたが、まだ体が暑さに慣れていない状況で、熱中症のリスク回避が最優先と判断しました。また、2年生の「まちたんけん」も急きよ取りやめました。ボランティアとして参加を予定して下さっていた保護者の方には、大変ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。

昨年の夏休み号では、熱海の土砂災害のことを書いた記憶があります。ここ数年は毎年のように、雨による河川の氾濫や土砂災害が各地で起きています。「線状降水帯」という言葉も今ではすっかり馴染みのものになりました。先日はテレビの天気予報で「キキクル」という言葉を耳にしました。気象庁が発する「危険度分布」の愛称とのことで、一般公募で決まったそうです。一見すると社名や商品名のようなこの言葉が「危機が来る」という意味であることを考えると、異常気象が当たり前のようになってしまったことを、今さらのように実感します。

これから台風シーズンを迎え、ますます大雨に対する警戒が必要になってきます。緊急災害時における登校や下校については、年度当初にお便りを配付しています。特に朝警報が出ている際の対応等は、夏休み期間にぜひお子さまと一緒にご確認ください。

新型コロナウイルスは流行の第7波に入ったといわれ、再び感染者が急増しています。学校でも7月に入ってから陽性者が複数確認されるようになり、学級閉鎖したクラスもあります。

コロナの感染が始まった2020年は、マスクや消毒液などの品不足の中で、学校の一斉臨時休業という前代未聞の事態になりました。

3年目を迎えた今、学校は手探り状態で行えることを実行しています。「正しくおそれる」という言葉がありますが、コロナ禍の経験や実践をもとに、2学期も「できることをできるだけ」の考えの下、教育活動を継続していきます。

保護者の皆さまには、毎日の検温や健康観察チェックシートの提出、ご家族に風邪症状があるときの登校等で、ご協力やご理解をいただいています。もうしばらくこの状況は続きそうです。今後ともよろしく願いいたします。

子どもたちにとってはコロナ禍の3度目の夏休みになります。いろいろな制限はありますが、学校生活ではできない経験をして、2学期に元気な顔が見られることを願っています。

異常気象のニュースを聞くにつれ、大雨や厳しい暑さの中で、毎日子どもたちの下校を見守ってくださる「おかえりなさい運動の会」の方たちには、感謝の気持ちでいっぱいになります。

1学期の終了にあたって、保護者の皆さまからも「毎日ありがとうございます」のお声掛けを、ぜひお願いいたします。